

かしわば

第15号

2007.7

柏葉脳神経外科病院

専門チームによる

充実したリハビリテーション

かしわばゼミナール

一刻を争う患者さんを救う救急医療体制

お知らせ

8月1日から精神保健科が休診します

食べて健康

キュウリ

救急 A館とB館の間で、緑の葉を広げる白樺の木

第2期工事が終了した昭和50年秋に、建物を一周するように白樺の若木が植えられました。平成元年に着工した第4期工事において、やむを得ず切ることになりましたが、「病院とともに年月を重ねてきた白樺を残したい」という願いから、3本だけが残されました。夏には一層深みを増した緑が風と戯れています。



柏葉脳神経外科病院では、地域の救急医療・急性期医療を担う医療機関として、生命に関わる脳卒中（脳血管障害）をはじめ、脳腫瘍や頸椎症を発症した患者さんを数多く受け入れ、高度な医療とリハビリテーションを提供しています。



リハビリテーションルーム

専門チームによる 充実したリハビリテーション

在宅復帰率の向上を目指しています

患者さんの
ライフスタイルを
尊重するために

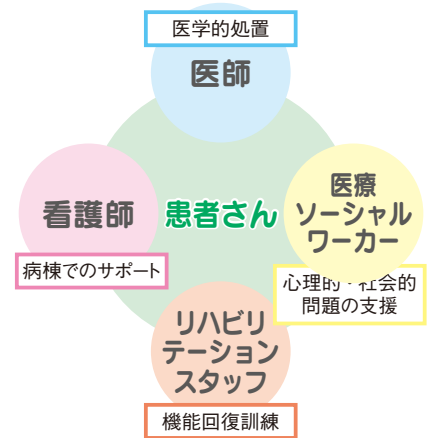


リハビリテーション科 科長
杉山 俊一

当院のリハビリテーションは、脳卒中（脳内出血・脳梗塞・くも膜下出血）などを原因とした「運動麻痺」「言語障害」「嚥下障害」「高次脳機能障害」などによる生活動作能力の低下を改善するための訓練を行っています。リハビリテーションルームには理学療法室、作業療法室、言語療法室、ADL室が設置されており、さまざまな訓練をスムーズに移行させています。また、リハビリテーションスタッフが患者さんのベッドサイドへ出向き、医師の指導下で病状の変化に合わせたリハビリテーション治療も行います。

医師、看護師、リハビリテーションスタッフ、医療ソーシャルワーカーが密接に連携しながら、患者さん一人一人の退院後の生活に焦点を当てて目標を設定し、リハビリテーションを進めていきます。

当院のリハビリテーション体制



リハビリテーションスタッフ：34人

理学療法士 15人 作業療法士 14人
言語聴覚士 4人 マッサージ師 1人

私たちの考えていること

病院の理念

私たちは、安全で安心いただける医療のサービスに徹し、患者さんの幸せを守ります。

病院の基本方針

- ・患者さんにとって、思いやりのある最善の医療に全力をつくします
- ・医師とスタッフによる説明と、患者さんの理解と選択に基づく医療を実践します
- ・患者さんの意志とプライバシーを尊重します
- ・医療従事者として、常に、豊かな人間性と技術の向上をめざします
- ・救命・救急医療から心と体のリハビリテーションまで、脳の総合病院をめざします
- ・地域医療機関との強力な連携をはかり、よりダイナミックな医療のサービスを提供します

患者さんの権利

- ・患者さんは、平等で、安全な医療を受ける権利があります
- ・自分の診療にかかわる人々の氏名と役割を知る権利があります
- ・自分の病気・治療・予後について知る権利があります
- ・治療について承諾・拒否する権利があります
- ・自分の診療について、他医師の意見（セカンドオピニオン）を得る権利があります
- ・自分のプライバシーを守る権利があります
- ・公的援助、地域サービスに関する情報を知る権利があります
- ・病院職員に対して、意見・苦情を伝える権利があります

リハビリテーションの流れ

当院では、医師・看護師・リハビリテーションスタッフ・医療ソーシャルワーカーが密接に連携し、発症直後の超急性期リハビリテーションから退院後の生活を視野に入れた訓練を行う回復期リハビリテーションまでをスムーズに進行させています。



医師・看護師・リハビリテーションスタッフがカンファレンスを行い、安全で効率的なリハビリテーションを開始します。



リハビリはベッドサイドから始まります



屋外散歩も重要なリハビリです

当院では、早期リハビリを含む超急性期の集中的な治療を行うために、2006年4月に「脳卒中ケアユニット」を開設しています。

患者さんのベッドサイドへ出向いて、患者さんの手足を動かし、筋肉の衰えや関節が固まることを防ぐことからスタートします。

症状に合わせ、座位・立位・歩行へとリハビリテーションの内容をステップアップしていきます。

脳卒中（脳血管障害）のリハビリテーションは、救急車で運ばれた直後の診断や治療が終わるとすぐに始まります。

病状が不安定な時期に行う超急性期リハビリテーションは、医師による厳重なリスク管理下で行われています。リハビリテーションスタッフが手術を終えた

超急性期

実施期間の目安：2～5日間
医師による厳重な
リスク管理下で実施

急性期

実施期間の目安：1～2週間
ベッドサイドへ出向いて
離床を促進

回復期

実施期間の目安：3カ月～半年間
ライフスタイルに合わせて
生活動作能力を向上

病状が安定する前から必要なリハビリテーションを十分に行うために、スタッフがベッドサイドに出向いて、ベッドでの寝返り、横向き、起き上がり動作を介助します。座位や車いすへの移動、立ち上がりや歩行訓練へと段階を経て進めていきます。また、声を出したり、話したりする訓練や食事を摂取するための訓練も行います。

病状が安定した回復期のリハビリテーションは、回復期病棟での暮らしそのものが生活動作能力を向上させる訓練です。患者さんの退院後の暮らし方に合わせ、ADL室（模擬住宅）で日常生活に則したリハビリテーションを行い、通院や通勤のための訓練では、スタッフ同伴で地下鉄やバスに実際に乗車する練習も行います。

退院前にはリハビリテーションスタッフと医療ソーシャルワーカーが、患者さんご自宅を訪問し、住宅改造や介助の相談にも応じています。

病棟で過ごす毎日が リハビリテーションです

回復期病棟 医長
山内 亨



回復期病棟では、病状が安定した患者さんが、自宅で生活するために必要な生活動作能力の向上を目指します。病棟全体が「身体活動の場」であり、起床から始まる日常生活動作（着替え、洗顔、トイレ、入浴、食事）や車いすでの移動、歩行訓練を行っています。病棟で過ごす毎日がリハビリテーションなのです。

病状の回復に応じて訓練内容を見直しながら、自立への援助を行います。これまでに多くの患者さんが当病棟から在宅生活への復帰を果たしています。

かわしば ゼミナール 第15回

一刻を争う患者さんを救う 救急医療体制

当院は札幌市の二次救急医療機関の認定を受けています

救急患者さんを
適切な医療機関に搬送

高度な医療技術で
患者さんを救う

急病や事故で、休日や夜間でも緊急な治療が必要になることがあります。そのようなとき、患者さんの症状・容態によって、すばやく適切な医療機関に搬送することが必要になります。

札幌市では24時間体制で救急医療に対応し、救急医療機関を初期救急医療機関・二次救急医療機関・三次救急医療機関に分け、市全体として効率的・効果的に救急医療を行う体制を整えています。

当院は、札幌市から指定を受けた二次救急医療機関として、患者さんの救急救命処置にいち早く対応するために24時間365日の診療体制を整えています。

国道36号から当院1階の救急処置室に直接乗り入れることができる救急車専用通路を設置し、同じフロアに『MRI室』『CT室』『RI室』『X線室』『DSA』『エコー室』など、最新鋭の医療機器を備えた検査室を配置し、迅速に検査・診断を行い、緊急手術の準備を整えています。

当院が目指しているのは、「かけがえない命をひとつでも多く救うこと」。札幌市内や近郊から、年間1500人以上の患者さんが日夜搬送されています。

【初期救急医療機関】

入院・手術の必要がなく、小処置・内服薬処方等で治療が可能な患者さんが対象で、救急当番医療機関、夜間急病センター、札幌歯科医師会口腔医療センターなどで対応しています。

【二次救急医療機関】

初期救急医療機関では対応できない、入院・手術などを必要とする重症急病患者さんを対象にした治療を当番制で行っています。診療科は、循環器・呼吸器系、消化器系、小児系、脳神経外科系、けが・災害の外科系、泌尿器系、産婦人科系。

【第三次救急医療機関】

生命の危機に瀕し、高度な医療が必要な重症救急患者さんを対象に治療を行います。

* 救急隊が現場で患者さんの病状を判断し、適切とされる医療機関に搬送します。



8月1日から
精神保健科が
休診します

当院『精神保健科』医長の村田忠良医師が、健康上の理由により、平成19年7月31日をもって退職することとなりました。

8月以降の精神保健科の診療につきましては、後任の医師と再開の時期が決まりましたら、皆様にお知らせいたします。

皆様には、多大なるご迷惑をおかけいたしますが、何とぞご理解、ご協力賜りますようお願いいたします。



食べて健康 キュウリ

夏バテ予防のためにも積極的に摂りたい野菜です

血液をサラサラにするビタミン

肌の健康を保つビタミンCや、利尿や体内に蓄積された塩分の排泄を促す効果のあるカリウムが含まれています。キュウリの青臭さは『ピラジン』で、血栓を予防する効果もあります。

酢を使った料理で

ビタミンCを酸化させる酵素が含まれるため、酵素の働きを抑える酢を使った料理が良いでしょう。

暑い日差しを避けるため、いつの間にか木陰を探してしまう。そんな季節になりましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。何かと外出の機会が多いこの時期ですが、発汗による脱水に気を付けていますか。

編集後記

高齢の方は特に加齢に伴う細胞内水分量の減少により脱水症を来しやすいといわれています。短い夏を大いに満喫するためにも、こまめな水分補給を心がけてください。

(小川)